

令和 元年 5 月 13 日現在

機関番号：32717

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03064

研究課題名(和文) 教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発

研究課題名(英文) The Development of Collaborative Training Programs in Action Learning

研究代表者

佐藤 豊 (SATO, YUTAKA)

桐蔭横浜大学・スポーツ健康政策学部・教授

研究者番号：50442504

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：学習指導要領等新たな教育改革の動向は、国、教育委員会、学校への伝達システム及び伝達公的研修が中心となるが、その伝達課程において情報が固定化する等の課題が指摘されてきた。本研究では、大学を拠点とした広域連携型ネットワークモデルを検討し、各地区で運用し、大学、教育行政担当者、現職教員、学生の参加によって、協働的学びを保障する学びのシステムの汎用性を検証した。また、授業力向上のため、単元構造図を活用したアクション・リサーチ型の研修プログラムの校種別、経年者別のプログラム開発を進め、大学における教師養成教育及び現職教員の資質・能力の向上に向けたプログラムの効果を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

○研究成果の学術的意義や社会的意義

大学教員、教育行政担当者、小中高現職教員、学生が参加し、全国22カ所の都道府県教育委員会との連携によりワークショップは、延べ1393名の参加し、ホームページのSNSのアクセス数は、36473件(2018.2)であった。また、単元構造図作成を中核とした様々なワークショップツールの開発を行い、学会発表及び論文公開、報告書によって大学、教育委員会等に成果を公開した。

研究成果の概要(英文)：The MEXT and prefectural boards of education play central roles in communicating information on the revised Courses of Study. However, issues and limits have been raised in the information transmitting process on to school sites. This study aimed to develop a wide-area collaborative teachers' network and examine the versatility of the learning system which ensures collaborative learning that promotes interaction among university teachers, supervisors of boards of education, in-service teachers and pre-service teachers. This study also aimed to develop action-learning training programs using 'unit structure diagram' and corresponding to school stages and teachers' career for each school stage, and examined the effectiveness of the programs in terms of in-service and pre-service teachers' professional development.

研究分野：体育科教育

キーワード：教師間ネットワーク 現職教員研修 教員養成 単元構造図 カリキュラム・マネジメント アクション・リサーチ 知識構造化 アクティブ・ラーニング

1. 研究開始当初の背景

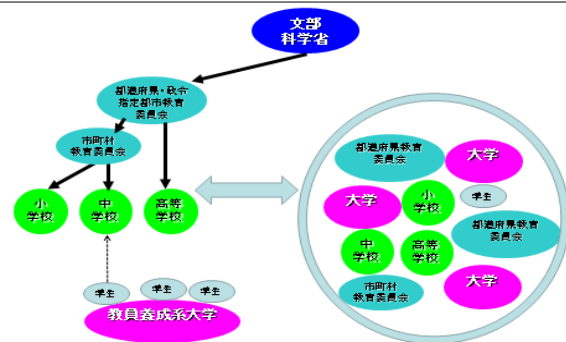
申請者らは、これまで学習指導要領周知システムの補完機能として、大学が拠点となり、ワークショップ型の学びとともに、SNSの活用によって教育委員会、中高現職教員、教師希望学生が情報を共有するシステムづくり(図1)と現職教員の資質向上に向けたアクション・リサーチ型研修プログラムの開発を進めてきた。これらの先行研究に基づきアクション・リサーチ型のプログラムとして、授業構築力を高めるための単元構造図を用いた授業づくりのワークショップを教育委員会、現職教員と協働して考案し、修正を行ってきた。

研究成果は、神奈川県立体育センター、福岡県、鹿児島県、長崎県、鳥取県等全国の現職教員に対する研修機会における実践的運用、及び鹿屋体育大学、早稲田大学、愛媛大学、福岡教育大学、岩手大学等の体育科教師教育研究者との連携によって、教員養成現場への導入が広がりつつある。

また、ソーシャルネットワークを活用した取組みは、英ラフバラ大学や豪クイーンズランド大学のコーチ教育においても研究が進められているが、大学における教員養成及び現職教師教育をつなぎ、喫緊の課題に対して、学術的見地から積極的に参画し、研究成果を教育臨床に生かすシステムを構築することは、「教育の質」が問われる現代にあって世界的な関心事であると言える。

これらの課題や方向性から、一定の地域で大学教員も学びの構成員として参加することを通して、効果的な情報交換機能と研修機能を兼ね備えた情報を共有するシステムづくりの成果をもとに、研究分担者らの地域にネットワークを広げ、申請者らの開発した単元構造図を用いたワークショップ型プログラムの実践的修正を重ね、協働的検証を行うことで、現職教師及び教師教育現場における職能開発の在り方を行うことは有益であるといえる。

図1 広域連携ネットワークの機能イメージ



2. 研究の目的

上記の背景及びこれまでの研究成果をもとに、本研究は、東北エリア、西日本エリア、九州広域エリア等の域内の複数の大学連携によって、現職教師及び教師教育におけるアクティブ・ラーニングの推進のための研修・教育ネットワークシステムの汎用性を検証するとともに、単元構造図を用いたワークショップ型プログラムの検証を目的とする。単元構造図は、①年間指導計画作成ワークショップ、②指導内容の系統化理解、③評価規準の設定と評価タイミングの理解、④グループでの単元構造図作成(運動領域版)、⑤グループでの単元構造図の作成(保健、体育理論版)、⑥単元構造図詳細図(運動領域版)、⑦単元構造図詳細版(保健、体育理論版)の組合せによる運用によって授業構想力を高める効果が確認されているが、全ての校種、領域での開発までは至っていない。また、これら全てのプログラムを体験し理解することは、かなりの時間を要することから、実践的運用上の課題も指摘されている。本研究では、これらの課題を解決するとともに経験年次に応じて、現職教師及び教師教育におけるアクティブ・ラーニング型カリキュラム及び研修プログラムの作成を進めていく。

3. 研究の方法

アクティブ・ラーニングによる教員の資質・能力の向上に向けたプログラムの効果を明らかにするため、以下の方法により検証する。

- ① 広域ネットワークシステム(学びの空間)の論理モデルの構築とその汎用性の検討。
- ② 諸外国の体育科教育分野で進められている大学が拠点となる教師間ネットワークについて、インタビュー調査を行い、本モデルとの比較・分析。
- ③ 教師養成教育向けアクション・リサーチ型カリキュラム(単元構造図ワークショップ)の校種別、領域別の開発・運用・評価
- ④ 現職教員向けアクション・リサーチ型研修プログラム(校種別、経年別)の開発・運用・評価

4. 研究成果

1. 2011年～2015年における体育の教員研修における単元構造図活用の有用性の検討

- 1) 研修を受けた教員は全体的に単元構造図を活用することについて、高く評価する傾向にあった。研修会別にみると調査を開始した2011年より一貫して学習指導要領あるいは指導内容の理解は高く評価され、学習過程のイメージは2012年度より、評価に関わっては2013年度より順次対象教員の評価が高くなる傾向にあった。
- 2) 対象教員による評価を所属校種別にみると全体的に大きな違いはみられなかったが、教職歴別にみると学習過程のイメージや指導と評価の計画や評価規準作成のイメージに大きな違いが認められた。全体的には養成・初任期あるいは熟練期の対象者より中堅期の教員が単元構造図を高く評価する傾向にあった。
- 3) 教員研修会への参加が少なかった養成・初任期の対象を除く中堅期・熟練期別に単元構造図活用の直接的なねらい5項目の因子分析を行った結果、中堅期は1因子に集約されたが、熟練期は2つの因子が抽出された。第1因子は「指導内容の理解」第2因子は「評価計画の理解」としたが、加えてこれら2つの因子を単元の過程として捉える「学習過程の理解」といった3点から単元構造図活用の良し悪しを分析・検討した。
- 4) 中堅期と熟練期に分けて単元構造図活用の直接的なねらいを評価する5項目の総合的な授業づくり3項目それぞれに対する関係をみたところ、中堅期の教員については学習過程や評価計画のイメージが持てること、熟練期の教員においては指導内容の理解が深まるという点でとりわけ授業づくり、自己のスキルアップや単元構造図の活用意欲の向上に強い関係が認められた。

2. 2016年度教師ネットワーク研究会参加者の意識

- 1) 業務(研修指導・授業実践)を今よりもよくしたい、授業づくりに必要な知識が欲しいなどの意欲が高く、広域や多様な立場(教員、大学教員、教育委員会、学生等)が連携する研究会は教員養成、現職研修、自身に有益であると感じている。一方で、「自分のイメージ通りに(学校や児童生徒への)指導ができて」「ホームページにアップロードされた資料を活用している」という回答に低い傾向がみられたことから、学校現場における現実と自身の求めたい授業イメージとの理想の間にギャップを感じていること、情報活用力に課題があることが確認された。
- 2) 経年者に、「自身の業務(研修指導・授業実践)をより高めたいという意欲が高まった」という項目に高い傾向がみられたこと、教育委員会関係者に「自身が取り組むべき課題が明確になった」「参加者間の新しいつながりが広がった」という項目で評価の高い傾向がみられたことから、本研究のターゲットである周知システムの第2段階及び第3段階の経年者層から評価の高い傾向が確認された。
一方で、20代、学生にとっては、「自身にとっては理解が難しい話題であった」「自身の業務(研修指導・授業実践)に自信が持てた」という項目で低く評価する傾向がみられることから、学生及び初任段階の経験が少ない対象者への話題と内容を検討すること、複数参加者の満足度の変化及び実施内容と満足度の関係を引き続き調査することの必要性が認められた。

3. 2016年度と2017年度教師ネットワーク研究会参加者の比較から

- 1) 参加者属性の傾向として、ワークショップの増加の変更に対して、20代、大学学生の参加の増加傾向が見られた(表2)。
- 2) 参加者の特性から見た傾向として、評価(2016及び2017ともに引き続き高い評価傾向がみられた)。
- 3) 業務(研修指導・授業実践)を今よりもよくしたい、授業づくりに必要な知識が欲しいなどの意欲が高く、広域や多様な立場(教員、大学教員、教育委員会、学生等)が連携する研究会は教員養成、現職研修、自身に有益であると感じている傾向は継続している。

4) 研修ツールの開発

新学習指導要領改訂に伴い、教科間の横のつながりや年間の指導計画の中でのマネジメントが一層求められることから、保健と体育をつなぐカリキュラム・マネジメントを取り出したワークショップの開発、体育分野における内容のまとまりに示された指導内容を、単元を検討する際に重点化を図るための領域内における指導内容重点化ワークショップ、知識の構造化に焦点を当てた知識構造化検討ワークショップ、技能以外の指導内容に重点化した態度、思考・判断重点化ワークショップ等を開発し、2017年～2018年は研修参加者に対して運用及び改善を進めた。参加者調査による効果分析及び研修ツールの公開を2019年度に予定している。

5) 諸外国教師間ネットワークの情報収集及び連携

韓国、台湾の動向調査報告書の作成、公開、英語版単元構造図の作成及び、韓国、台湾、アメリカ、イギリスの研究者との意見交換及び韓国中央大学、台湾師範大学、ブリッジウォーター大学(アメリカ)の学生へのワークショップの開催、東アジアスポーツ教育学会、SHAPE AMERICAにおける学会発表を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 25 件)

<論文>

- ① 佐藤豊, 菊幸一, 森良一, 高橋修一, 新たな時代の保健体育のアウトカムを考える『保健と体育の充実に向けた教育課程の可能性』: 九州体育・保健体育ネットワーク研究会 2016 ファイナル in 福岡 (〈特集 II〉高大院連携教育の模索), 桐蔭論叢, 35 号, 2016, p35-41
- ② 佐藤豊, 友添秀則, 柴田一浩, 大越正大, 深見英一郎, 学習指導要領の情報共有システム構築のための試論, スポーツ科学研究, 査読あり, 13 号, 2016, p12-27
- ③ 佐藤豊, 梅ちか子, 鹿屋体育大学における 2014 年度保健体育科教育法Ⅳの授業実践とその省察—体験学習モデルに基づくアクティブ・ラーニング型授業における実践的指導力育成システムの構築に向けて—, 査読あり, 鹿屋体育大学学術研究紀要第 52 号, 2016, p35-67,
- ④ 佐藤豊, 資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びとは, 体育科教育学研究 35-1, P19-26, 2019. 3
- ⑤ 佐藤豊, 木原 洋一, 佐藤 国正, 田村 幸久, 吉原 昌子, 遠藤 純二, 体育・スポーツ系教員養成大学における教職課程コアカリキュラムを取り入れた授業検討の試み, 桐蔭スポーツ科学, 査読あり, 2, 33-43 (2019-02-28)
- ⑥ 梅ちか子, 松元隆秀, 佐藤豊, 金高宏文, 体育系大学のダンス授業における ICT 活用によるダンス映像視聴・評価活動の実践—大学 3・4 年生を対象とした授業の分析を通じて—, 査読あり, 大学体育学 15, 2018, p. 31-45
- ⑦ 佐藤豊, 日野克博, 高橋修一, 森良一. 新たな学習指導要領で期待される授業づくり—九州体育・保健体育ネットワーク研究会 2017 ファイナル in 福岡, 桐蔭論叢第 39 号, 29-37 (2018 年 12 月)
- ⑧ 佐藤豊, 青木哲也, 三田部勇, 四方田健二, 木原慎介, 清田美紀, 佐藤若, 岩崎敬, 後藤晃伸, 2018 年台湾における体育・保健体育科教育の現状, 桐蔭論叢第 40 号, 65-76 (2019)
- ⑨ 長嶺健・本多壮太郎 (2019) 大学における体育の模擬授業の在り方に関する研究—受講生の相互評価及びリフレクションシートへの記述分析を通して—, 九州共立大学研究紀要, 九州共立大学, 第 9 巻, 第 2 号, 9~19 ページ.
- ⑩ 佐藤豊, 「主体的・対話的で深い学び」学齢期から生涯教育へ, 女子体育 vol159-8-9 日本女子体育連盟編集 p6-10, 2017. 9
- ⑪ 佐藤豊, 青木哲也, 吉野聡, 本多壮太郎, 木原慎介, 清田美紀, 佐藤若, 岩崎敬, 座安可那子 2017 年度韓国における体育・保健体育科教育の現状, 査読あり, 桐蔭スポーツ科学, PP39-50, 2018
- ⑫ 友添秀則, 深見英一郎, 吉永武史, 岡田悠佑, 根本想, 竹村瑞穂, 小野雄大, 早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターにおけるオリンピック・パラリンピック教育の取り組み: 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校におけるオリンピック・パラリンピック教育実践, スポーツ科学研究 15 巻, 39-55, 2018
- ⑬ 高橋平徳, 日野克博, 山崎哲司, 教員に求められる資質能力と教員養成, 愛媛大学紀要 64 巻, pp143-155, 2017
- ⑭ 小野雄大・友添秀則・高橋修一・深見英一郎・吉永武史・根本想 (2018) 中学校の体育授業における学習者の学習観および学習方略の関連に関する研究. 体育学研究, 63 (1): 215-236.

<研究報告書>

- ⑮ 佐藤豊, 菊幸一, 森良一, 高橋修一, 九州体育・保健体育ネットワーク研究会 2016 ファイナル in 福岡 新たな時代の保健体育のアウトカムを考える『保健と体育の充実に向けた教育課程の可能性』, 平成 27 年度~30 年度 科学研究費助成事業 基礎研究 B (15H0364) 研究報告, p1-24, 2016. 7
<http://daitairen.or.jp/2013/wp-content/uploads/2015/02/43ebde813811379bc6eecbdf999d300.pdf>
- ⑯ 佐藤豊, 友添秀則, 日野克博, 吉野聡, 本多壮太郎, 高橋修一, 梅ちか子, 単元構造図を用いた授業づくり—アクション・ラーニング型研修プログラムの効果的活用に向けて—, 平成 27 年度~30 年度 科学研究費助成事業 基礎研究 B (15H0364) 「教師養成, 現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発 中間報告書, 2017. p 282
https://kyushunet.com/sns/uploads/111_20170214055851.pdf
- ⑰ 九州体育・保健体育ネットワーク研究会, 平成 28 年度 第 6 回九州体育・保健体育ネットワーク研究会 研究紀要, p 185, 2017.
- ⑱ 佐藤豊, 木原慎介, 清田美紀, 四方田健二, 大津展子, 青木哲也, 吉野聡, 本多壮太郎, 2016 年台湾における教育行政及び小・中・高等学校の現状, 平成 27 年度~30 年度 科学研究費助成事業 基礎研究 B (15H0364) 成果報告書 p22, 2017,
https://kyushunet.com/sns/uploads/111_20170214055851.pdf
- ⑲ 佐藤豊, スポーツの価値を基盤とした授業を通して目指すもの, 日本アンチ・ドーピング

- 機構, スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ報告書 2017, p9-13, p44-70
- ⑳ 佐藤豊, 次期学習指導要領改訂に向けた現行保健体育の充実について, 第 32 回愛知県高等学校保健体育保健体育研究大会研究収録, p57-73, 2017. 1
- 21 北広島町立芸北小学校, 中学校, (佐藤豊, 運営指導委員として)社会の中で自律して生きる力を育てるため, 小学校から中学校までの 9 年間に「挑戦科」を新設した際の教育課程, 系統的な指導方法についての研究, 平成 28 年度研究開発実施報告書 p 94, 2017. 1
- 22 佐藤豊, 「スポーツの価値」を育てることができる人材の育成を目指して, 授業づくりグループワーク, スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ報告書 2018, p9-15, 35-63, 日本アンチ・ドーピング機構(JADA), 2018
- 23 2019 年度九州・体育保健体育ネットワーク研究会紀要 全 P.211, 2019. 3
- 24 佐藤豊, スポーツの価値を基盤とした教育「スポーツの価値と学校教育をつなぐ視点」9-15, カリキュラム・マネジメントの検討を通して「スポーツの価値」をテーマとした授業の課題・可能性を共有する, スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ報告書 2019, 26-35, 67, 日本アンチドーピング機構, 2019. 3
- 25 本多壮太郎, 体力・運動能力向上のための基礎的実践力を高める体づくり運動の授業実践研究—小学校高学年児童を対象に—, 平成 29 年度小学校の体力向上に関する福岡教育大学連携事業報告書, 42 ページ, 2018

【学会発表】(計 19 件)

- ① 梶ちか子, 小松恵理子, 佐藤豊, 体育系大学のダンス授業において学習者が獲得したスキルについての検討—単元構造図に基づく検証を通して—, 第 67 回日本体育学会大会, 2016 年 8 月 25 日
- ② 佐藤豊, 友添秀則, 高橋修一, 吉野聡, 本多壮太郎, 清水将, 日野克博, 梶ちか子, 教師養成, 現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発—2011 年~2015 年における体育の教員研修における単元構造図活用の有用性の検討—, 第 67 回日本体育学会大会, 2016 年 8 月
- ③ 佐藤豊, 体育と保健の関連性を生かしたカリキュラムの構想, 日本体育学会体育科教育専門分科会シンポジウム, 「体育と保健の関連性を生かした体育科・保健体育科の在り方」シンポジスト, 2016
- ④ 佐藤若, 佐藤豊, 吉野聡, 高等学校体育におけるスポーツVI(体づくり運動)の指導体験が生徒の資質・能力の育成に及ぼす効果の検討, 第 67 回日本体育学会大会, 2016 年 8 月
- ⑤ Satoshi Yoshino, Leverage the Power of Active Educator in physical Education: What could be do for the activation of our physical education teaching field? The 2016 International Conference for the 5th East Asian Alliance of Sport Pedagogy. 3rd December 2016.
- ⑥ 佐藤豊, 高橋修一, 大越正大, 木原慎介, 梶ちか子, 大学版単元構造図に基づく授業設計の試み, 日本体育科教育学会 第 21 回大会, 2016 年 7 月 10 日 体育科教育学研究 33-1, p67, 2017. 3
- ⑦ 佐藤豊, 友添秀則, 高橋修一, 吉野聡, 本多壮太郎, 清水将, 日野克博, 梶ちか子, 木原 慎介, 教師, 行政, 大学等の広域型連携モデルの在り方, 日本体育科教育学会 第 22 回大会, 2017
- ⑧ Satoshi Yoshino, Academic Exchange Agreement between the Japanese Society of Sport Education, Korean Association of Sport Pedagogy, and Taiwan Society of Sport Pedagogy, The 2017 International Conference for the 5th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (招待講演)(国際学会), 2017
- ⑨ Yutaka Sato, Shinsuke Kihara, Satoshi Yoshino, Sotarou Honda, The Development of an Application Software for Fitness in PE that Develops Abilities of Making Exercise Plans, The 2017 International Conference for the 5th East Asian Alliance of Sport Pedagogy (国際学会), 2017
- ⑩ Tokuda, T & Honda, S., A study on karate classes in PE that introduce group kata, 2017 International Budo Conference, Japanese Academy of Budo 50th Anniversary Conference (国際学会), 2017
- ⑪ Matsunaga, T & Honda, S., A study on teaching of kendo classes developed by placing a repetitive pater of “thinking stage” and “trial stages”, 2017 International Budo Conference, Japanese Academy of Budo 50th Anniversary Conference (国際学会), 2017
- ⑫ 松永武人, 本多壮太郎, 礼節的側面の指導に焦点を当てた剣道の授業展開に関する研究, 九州体育・スポーツ学会第 66 回大会, 2017
- ⑬ 多田皓介, 吉永武史, 友添秀則, 深見英一郎, 中学校の体育授業において教師の指導方略が生徒の学習成果に与える影響: 特に生徒の主体性に着目して, 日本スポーツ教育学会第 37 回大会, 2017
- ⑭ Yutaka Sato, Satoshi Yoshino, Sotaro Honda, Emi Tsuda, Effectiveness of a Unit

Structure Diagram in Professional Development Workshop, 2018 SHAPE America National Convention & Expo (国際学会), 2018

- ⑮ 佐藤豊, 日本体育科教育学会 第23回大会(沖縄大学) 基調講演「資質・能力を育む主体的・対話的な深い学びとは?」2018.6
- ⑯ 佐藤豊, 友添秀則, 本多壮太郎, 大越正大, 木原慎介, 三田部勇, 清田美紀, 梶ちか子, 体育の知識を明確するためのワークショップの検討, 日本体育科教育学会第23回大会(沖縄大学), 2018.6
- ⑰ 佐藤豊, 友添秀則, 高橋修一, 吉野聡, 本多壮太郎, 清水将, 日野克博, 梶ちか子, 教師養成・現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発②-2016年度と2017年度教師ネットワーク研究会参加者の比較から-, 日本体育学会第69回大会, 2018.8
- ⑱ M, Seida. Y, Sato. & S, Honda. (2018) A Practgical Study on Classes of Fitness in PE at Primary Schools that Utiliases ICT, The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy and Adventure Physical Education, 台湾・台湾體育大学, The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy and Adventure Physical Education プログラム, 105 ページ.
- ⑲ S, Honda, Y, Sato. & M, Seida. (2018) A Qualitative Study on Action Learning-Based PE Study Group, The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy and Adventure Physical Education, 台湾・台湾體育大学, The 2018 International Conference for the 7th East Asian Alliance of Sport Pedagogy and Adventure Physical Education プログラム

[図書] (計14件)

- ① 佐藤豊 共著, 平成29年度版 学習指導要領改訂のポイント(小学校・中学校 体育・保健体育) 楽しい体育の授業 plus 「アクティブ・ラーニングと体育」 明治図書 p.10-14, 2017.4
- ② 佐藤豊, 体育・保健体育を中核としたカリキュラム・マネジメントを構想する体育科教育 65-4, 大修館書店 p.46-49, 2017.4
- ③ 佐藤豊 編著, 平成29年度版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編, 明治図書, 全189ページ, 2017
- ④ 佐藤豊 単著, 組体操・競技 運動会の事故を防ごう、文部科学省の指針を読み解く, 楽しい体育の授業 9月号, no324, 明治図書, p4-5, 2016
- ⑤ 佐藤豊 共著, 平成29年度版 学習指導要領改訂のポイント(小学校・中学校 体育・保健体育) 楽しい体育の授業 plus 「アクティブ・ラーニングと体育」 明治図書 p10-14, 2017.4
- ⑥ 糸岡夕里, 日野克博, 田中雅人, 石井浩一, 福田隆, 上田敏子, 教員養成課程における選択必修科目『初等体育』の意義, 大学教育実践ジャーナル 16巻 41-46, 2017
- ⑦ 佐藤豊, 体育・保健体育を中核としたカリキュラム・マネジメントを構想する体育科教育 65-4, 大修館書店 pp46-49, 2017.4
- ⑧ 日野克博, 移行期の「保健体育科<体育>」実践ガイド新教育課程実践研究会(編), 教育開発研究所, 76-79, 2017
- ⑨ 岩田靖, 吉野聡, 日野克博, 近藤智靖 編著, その他21名(3清水将, 20佐藤豊), 初等体育授業づくり入門, 大修館書店, 全174ページ, 2017
- ⑩ 友添秀則, 保健体育科の改訂について, 中東教育資料 66(10)巻, 14-17, 2017
- ⑪ 本多壮太郎, 「伝統と文化」は「技術」とセットで学ぼう, 体育科教育 65-4, 28-31, 2017
- ⑫ 松永武人, 本多壮太郎, 剣道授業における指導支援ツールの作成, 全国教育系大学剣道連盟研究情報誌 19巻, 25-30, 2017
- ⑬ 友添秀則, 学校体育の運動教材とその特性, 臨床スポーツ医学 34(10)巻, 1032-1036, 2017
- ⑭ 佐藤豊 編著, 友添秀則, 吉野聡, 平成30年度版高等学校学習指導要領改訂のポイント, 保健体育編, 明治図書, 2018

[その他]

ホームページ等 <https://kyushunet.com/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

1. 友添 秀則, Hidenori Tomozoe, 早稲田大学スポーツ科学学術院, 教授, 90155581
2. 日野 克博, Katsuhiro Hino, 愛媛大学教育学部, 准教授, 40304662
3. 吉野 聡, Satoshi Yoshino, 茨城大学教育学部, 准教授, 10334004
4. 清水 将, Syo Simizu, 岩手大学教育学部, 准教授, 20547872,
5. 高橋 修一, Suuichi Takahashi, 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部, 教育課程調査官, 10736804
6. 本多 壮太郎, Sotaro Honda, 福岡教育大学教育学部, 准教授, 10452707